

作業学習における学ぶ意欲を高める指導の検討

—エンゲージメントを促す環境要因を踏まえた授業づくりを通して—

北 翔平

（金沢大学附属特別支援学校）

KEY WORDS: 作業学習 学習意欲 授業づくり

I 問題と目的

近年、知識・技能といった狭義の学力だけではなく、学ぶ力としての学力である学習意欲・知的好奇心・学習方法などを含めた広義の学力の獲得に関心が高まっている。多くの知的障害特別支援学校においても学習意欲の向上をねらった学習活動が展開されているが、学習意欲の指導と評価は容易なことではない（国立特別支援教育総合研究所,2012）。

そこで本研究では、特別支援学校高等部の作業学習において、学習意欲を高めることを目的とした指導方法の検討を行った。なお、研究を進めるにあたっては自己決定理論を参考に、学習意欲の高まりを自己決定的に学習に取り組む姿勢とし、生徒にとって自己決定の程度が高い「内的調整」「同一化の調整」を目指して実践を行った。

II 方法

1 授業計画

生徒の実態や学習内容を踏まえ、具体的な指導を「エンゲージメントを促す環境要因」（鹿毛,2017）をもとに検討した（表 1）。エンゲージメントは「質の高いやる気」を示す概念で、課題に没頭して取り組んでいる心理状態のことである。

【表 1】教師の指導と課題例（一部抜粋）

【自律性サポート】生徒の自律性を支援すること
・活動・課題を設定した意図を伝える。
・多様な課題への関わり方を認める。
（課題例：正確な作業のために、どのように確認すればよいだろうか？）
【構造】有意味な情報と達成へのサポートを提供すること
・さらに一歩進むための助言をする。
・自己調整（学び方を学ぶ）の必要性を示す。
・「なぜ」「どうして」を誘発する声掛けをする。
【関わりあい】思いやりのある人間関係を整えること
・心おきなく学びあえるチームに育つようにする。
・友達の声掛けによって成功（協働）につながる経験を積めるようにする。
（課題例：友達の得意なことを活かした役割分担とは？）

2 対象生徒・研究期間・倫理的配慮

清掃作業を主に取り組む作業班に所属している高等部 8 名の生徒を対象とし、20XX 年 6 月から 11 月の 3 つの単元で継続的に実践を行った。なお、本研究は協力校の個人情報取扱規定等を遵守し、協力校の承認を得て実施した。

3 評価方法

① 自律的学習動機尺度を用いたアンケート

自己決定理論を基に作成した自律的学習動機尺度（西村,2011）を 6 月（実践前）・8 月・11 月の 3 回用いた。ただし、生徒の実態に応じて文言の一部変更を行った。

② 発話記録・作業日誌の記述

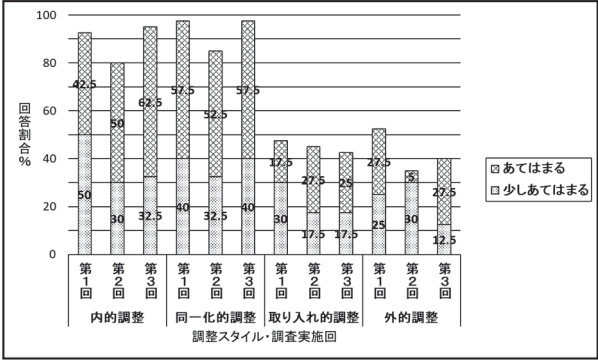
①のアンケートを 6 月に 2 回行い、回答の安定性が認められなかった生徒については、授業導入時の発話記録や作業日誌の記述から変容を見取った。

III 結果

1 アンケート

内的調整・同一化の調整に係る質問に対する肯定的な回答（あてはまる・少しあてはまる）は、第 2 回は 1 割減少（第

1 回比）、第 3 回は第 1 回と同水準になった。一方、取り入れの調整・外的調整に係る質問に対する肯定的な回答は第 2 回・3 回ともに 1 割程度の減少（第 1 回比）となった（図 1）。



【図 1】アンケート結果

2 発話記録・作業日誌の記述

1 学期は「〇〇を先生に確認しました」「先生から〇〇する」といいよと言われました」との記述が多く、教師からの助言を振り返る記述が中心になっていた。

2 学期以降の単元では「みんなに声かけして、自分は何をすればいいかを聞く」「〇〇さんのポリッシャーをかけているとき、コードを持ち上げることができました」といった自らの考えを作業で試行した結果を評価する記述が増えた。

IV 考察

作業学習は教育課程の中心となる指導形態であることから、生徒にとっても作業班の所属決定は大きな関心事項である。その中で、希望どおりの作業班に入ったことが、自己決定的に作業に臨む姿につながった。しかし、年度初めの単元では新しい知識・技能の習得が学習の中心となり、教師主導の授業展開となった。そのため、生徒にとっては自分なりに課題へ関わる機会や、多様な手段によって思考を表現する機会を得ることが難しく、自己決定の程度が低下したと考えられる。2 学期以降の単元では複数の解決方法がある課題を提示することによって、生徒は既存の知識・技能を活用し、自分なりに解決しようとする姿が見られた。課題の中で生徒自身が学習の進め方を決められるようになったことで、生徒にとっては多様な課題の関わりや、多様な手段によって思考を表現する機会を得ることができ、自己決定的に作業に臨む姿につながった。よって、生徒が自分自身の知識・技能を使って自らの考えを表現したり、学習課題へのチャレンジを通して成長したりすることを十分に許容する教育環境であればあるほど自己決定的な姿が促される、つまり学ぶ意欲が向上することが示唆された。

V 参考文献

- 鹿毛雅治（2013）学習意欲の理論.金子書房.
- 国立特別支援教育総合研究所（2012）特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究,61-64
- 西村多久磨（2011）自律的な学習動機づけとメタ認知の方略が学業成績を予測するプロセス.教育心理学研究,59(1),77-87

（KITA Shohei）